

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」(44)

平成 28 年 5 月 30 日

村山 章

人間は昔から犬や猫と共に暮らしてきたようです。犬の祖先にはいくつかの説がありますが、元々、番犬としての要素が強く、家の出入り口に置かれた犬小屋で生活をし、見知らぬ人間を見かけると吠えていました。一方、猫の祖先はヤマネコという説があり、ネズミ退治の役割を担っていて人間と共に家の中で生活をしていました。猫はネズミを捕えると、口にネズミを咥え、必ず人間に見せに来ます。ここで人間は「お～、偉い偉い」と褒めていたものです。つまり犬と猫は、それぞれ役割をもって人間と共に生きてきたのだと思います。

道端でたまたま猫とすれ違ったりすると、猫は身構えて下からこちらを睨みつけます。その機敏な動きと、鋭利な眼差しに、こちらはドキッとさせられます。体も小さく弱い立場にある動物は、常に天敵から身を守る習性が身に付いているのでしょう。私たち人間よりはよほど真剣に生きていますね。

犬が一匹で自由に散歩をしている姿も素晴らしいと感じます。地面を蹴った瞬間に地球から反動をもらっているかのようです。だからこそ、ピョンピョンピョンと、リズムカルにその姿を移動させ、いくら動き続けても疲れないうエネルギーを備えているように見えます。そして何を考えているのか分かりませんが、とても楽しそうに見えます。犬も猫も、いただいた命を精一杯守り、それぞれに謳歌しているのでしょう。

「目に青葉山ほととぎす初鰹」という俳句は、江戸時代に山口素堂という俳人によって作られたそうですが、あの生命力がほとぼしっている青葉から、多く人は生きるエネルギーをもらってきたのだと思います。今も私たちは、数多くの生命に囲まれ、数多くの生命の恩恵と共に生きています。そして、そのなかから少しだけ生命をいただいて人間は生存しています。

犬や猫をはじめとして全ての生物は、私物、物ではありません。共に同じ時代に生存しているという「共生」の考え方が大切なのではないのでしょうか。